

明峰中学校と小瀬高校は、連携型中高一貫校として新たな中高連携を模索し、推進することを通して、「地域の中で歩み、地域に貢献できる生徒」の育成に励んでいます。

## 連携型中高一貫教育 生徒交流事業 新たな取組にチャレンジ

連携型中高一貫教育の一環として、明峰中文化祭での交流にチャレンジしました。今年の文化祭では、中学生の「花いけバトル」に小瀬高校の『現代文化研究部』が協力しました。中学生2人組のチームに高校生1人が加わり、チーム戦を行いました。できあがった作品は全校生徒の投票で勝敗が決定しました。各チームとも工夫を凝らし、味のある作品を仕上げました。

参加した生徒からは、「大勢の前で緊張したけれど、よくできた」「はじめての中学生だったけれどバランスよくできた」「中高一貫の交流のよさがみんなに伝わった」など多くの意見が聞こえてきました。会場も全校生徒で盛り上がりました。

今年初の試みでしたが、これまで行ってきた部活動や学力向上、スポット型授業などの取組に加え、生徒交流の新しい場が見つかりました。明峰中と小瀬高が互いのよさに気づき、自分の成長を確かめたり、地域で生きる素晴らしさに気付いたりするよい機会となりました。これからも地域密着の教育を推進してまいります。今後ともご協力をお願いいたします。



## ふれあいキャンパス 「多様な他者」とのふれあいを通して

11月2日(木)、連携型中高一貫教育生徒交流事業「ふれあいキャンパス」が開催されました。ふれあいキャンパスは、連携校生徒(小瀬高・明峰中)の交流が最大の目的です。明峰中と小瀬高の生徒は、百人一首やペーパークラフト等の講座に分かれ、様々な活動に取り組みながら互いに交流を深めました。開会行事では、初の試みとして中高生徒会の合同企画『謎解き』で親睦を深めました。普段の学校生活ではなかなか交流することがない「多様な他者」とコミュニケーションをとることで、自分の世界を広げることができたのではないのでしょうか。



